

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第39週 (9/24-9/30) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		39週	38週	37週	36週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	15	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	27	23	26	26
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	9/24-9/30	9/17-9/23	9/10-9/16	9/3-9/9	9/17-9/23
			39週	38週	37週	36週	38週
小 児 科	RSウイルス感染症		6 0.33	5 0.33	13 0.72	12 0.67	150 1.14
	咽頭結膜熱		4 0.22	4 0.27	7 0.39	3 0.17	46 0.35
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		20 1.11	22 1.47	34 1.89	34 1.89	192 1.45
	感染性胃腸炎		35 1.94	37 2.47	79 4.39	71 3.94	355 2.69
	水痘		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	25 0.19
	手足口病		15 0.83	15 1.00	26 1.44	23 1.28	120 0.91
	伝染性紅斑	○	7 0.39	5 0.33	4 0.22	3 0.17	51 0.39
	突発性発しん		14 0.78	6 0.40	4 0.22	12 0.67	49 0.37
	ヘルパンギーナ		15 0.83	15 1.00	21 1.17	16 0.89	71 0.54
	流行性耳下腺炎		2 0.11	1 0.07	1 0.06	1 0.06	16 0.12
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		2 0.07	3 0.13	4 0.15	2 0.08	18 0.09
眼 科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.20	0 0.00
	流行性角結膜炎		4 0.80	5 1.00	3 0.60	11 2.20	42 1.20
基 幹 定 点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.33
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	4 0.44
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(16件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	IGRA検査	劇症型溶血性 レンサ球菌感染症	男性	80歳代	病原体の分離・同定
結核	男性	60歳代	病原体等の検出等				
結核	男性	60歳代	病原体遺伝子の検出等	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	男性	90歳代	病原体の分離・同定	百日咳	男性	50歳代	抗体の検出
腸管出血性 大腸菌感染症	女性	30歳代	病原体の分離・同定 及びベロ毒素の確認	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
				百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
レジオネラ症	男性	50歳代	病原体抗原の検出	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
レジオネラ症	男性	70歳代	病原体抗原の検出	風しん	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出
梅毒	男性	20歳代	血清抗体の検出	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出

・第39週は、結核4件(132)、腸管出血性大腸菌感染症1件(20)、レジオネラ症2件(12)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(8)、梅毒1件(19)、百日咳5件(175)、風しん2件(54)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

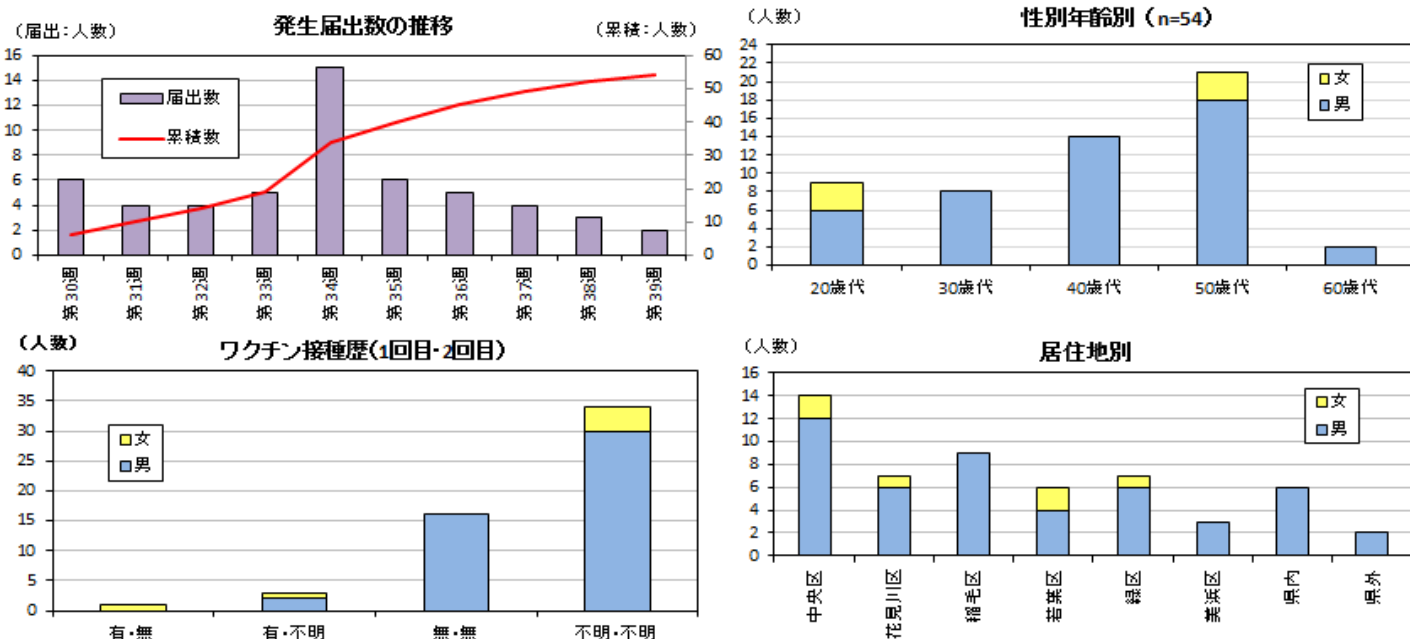
定点当たり報告数 第39週のコメント

<伝染性紅斑> 前週から増加し0.39となった。過去10年の同時期と比べると多め。

■ トピック ■

<風しん>

全国レベルの第38週の累積報告数は770件で、昨年の同時期と比べるとおよそ11倍強となっています。都道府県別では東京都、千葉県、神奈川県順で多く報告されており、関東地域で多く発生しています。千葉市では第30週から報告が開始、第34週をピークに週ごとの報告数は着実に減ってきていますが届出は連続しており、第39週は2件の発生届があり、2018年の累計は54件となりました。性別では男性が88.9%(48名)、女性が11.1%(6名)で、いずれも成人で年齢階級別では50歳代(38.9%:21名)、40歳代(25.9%:14名)、20歳代(16.7%:9名)の順で多く、40歳代~50歳代が中心となっています。居住地別は、中央区(25.9%:14名)、稲毛区(16.7%:9名)、花見川区及び緑区(共に13.0%:7名)の順で多く発生しています。ワクチン接種歴は無し又は不明の症例が9割を超えています。



<伝染性紅斑>

全国レベルの第38週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では宮城県、神奈川県、東京都の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市では第36週から連続して増加しており、第39週は0.39となり、過去10年の同時期と比べると多めとなりました。区別の発生状況は美浜区(1.00/定点)で最多で、同区の4歳及び5歳で発生報告がありました。2018年第1週から第39週の累積報告数は63件で、性別では男性が52.4%(33名)、女性が47.6%(30名)で、年齢階級別では4歳(17.5%:11名)、5歳(15.9%:10名)、1歳(14.3%:9名)の順で多くなっています。

